

出句用紙(番号 /)

作者名

桃

遠嶺は雪に岬の墓開きしけり

めくるたび余生笑ふ去年今年

喪の家を訪は大きな雪達磨

初春へ良き音鳴らせ奈良太郎

生きながら縮む背丈や去年今年

南柯句会

〇〇	〇	〇	〇	〇〇
「いご」を慣き通す去年今年	初曆 兜太 <small>トウタ</small> の句より始まりぬ	家持 <small>イモ</small> の歌と日の出の初曆	去年今年地球の自転休みなし	老い二人しんじで今と晦日蕎麦

出句用紙(番号3)

作者名 光弥

去年今年等間隔に進む針

去年今年布手袋の映写技師

初風や時を預けるかかり船

手製凧風に遊ぼれ家路かな

初旆や坂の途中の和紅茶屋

南柯句会

出句用紙(番号4)

作者名 砂布金爺

鏝こびついた螺かじ子こ巻まき直ちし初は明やり

去年こぞん今年か心の澱おりも少すくし古ふるり

山茶花さざんかのサ落さつ人肌ひとを恋こふ如ごとし

ぬばたまの髪かみ友ともを搔かき上げ爛かんの酒さけ

身のうちうちの澱おりを掬すくひて年用とし意い

南柯句会

出句用紙

(番号 5)

◎特選
○並選

作者名…(安藤)

英彦

○	抜き抜かれたすきを繋ぐ冬山河 <small>つな</small>
○○○	冬耕や土塊膨る陽の光 <small>つちくれ ふく ひ</small>
◎○○	木守柿見つむ鴉の時間切れ <small>こもりがき からす</small>
○	寒暁の池に素潜る波紋かな <small>かんぎょう すもぐ</small>
○ 兼題句	昏迷に為す術なしや去年今年 <small>な すべ こぞことし</small>

出句用紙

6

作者名 藤子工三

			一	一	
			見ら 駆けるイハトーブの 枯野かな	人生の晩成を期す冬夕陽	不景気の世でも欠かせぬお年玉
			よろよろの老犬の背に冬日差		
兼			勤行の絶えよことやし 去年今年		

出句用紙(番号7)

作者名

大陽

〇②

初日の出塵ひとつ無き道続く

〇〇

冬晴れの道化師ひとつ涙描く

〇〇②

和菓子屋の土間扇あかが子る餅並ぶ

悴なんだ手を握り合ふ血の巡り

去年今年酒と煙草と唄俳句

南柯句会

R8
1/1
南柯

作者名 上田秋霜

○○○

一点を見つめる瞳多始

大峰の水で洗ひし葉大根

列島の熊は眠らず山眠る

○ 去年今年変へていいものならぬもの

煤逃げの報ひは多分倍返し

出句用紙(番号 9)

作者名 上窪泰千

泰千の名乗りをあげず初句人会

湯気立ちぬ朝の食卓七草粥

控つえますすしだけが手書ききの賀状かな

買かい初ぞいに昭和百年の冊子かな

戦争と平和の世界去年今年

兼題

★

○桃紅

南柯句会

出句用紙(番号 10)

作者名 シャロワ

	せりなづなごきょうはにいらこそとし
	わが月子の痛みと女印れ去年今年
の	去年今年完売心羽三番印又
の	伊と虫の草子履身 <small>こら</small> 抵 <small>た</small> り去年今年
	入隈の段句数添小去年今年

2026.1.14.

南柯句会

出句用紙(番号 11)

作者名 平七草

		〇〇	〇〇〇	〇〇
		居酒屋のしめにかしわ手 初参り	少しだけ春の香りのこ番線	徒んだテニムを繕い初 <small>セウ</small> 言 <small>コト</small>
	拓郎の「馬」を聴きつゝ 初々天乙			
	よそ行きも並日 段着のまま去年今年			

南柯句会

12
5集.

出句用紙・作者名・宮本こぼ

○ 薪割の猫車ねこしゃふらつく冬木立

○ お正月銀河鉄道臨時便

冬銀河料理人は二つ星

○ 馬券舞い風走りぬく有馬記念

○ 献血のOからAへ去年今年

出句用紙・作者名・鮫島しようん

〇〇〇 心臓を引きずってゆく去年今年

〇〇 裏ごしの粥ひと匙もお節かな

〇〇〇 冬灯し里に二軒の喪中かな

〇 切り分けぬケーキの軽さクリスマス

数へ日や灰皿の前の同じ顔

出句用紙・作者名・富野香衣

①④

〇〇〇
黒髪の齡を梳きて初御空

〇〇
灯芯をもたぬ女や冬の花

〇〇
歳時記に歳をとらせて初鏡

〇〇
一本の氷柱天地を貫けり

〇〇
カラヤンの仰け反る頭去年今年

出句用紙・作者名・山本わこ

冬至の日母に電話を何回も

○ 気がかりの数だけ入れる蕪蒸

音すべて途絶へたる夜蝶凍つる

○○ 初日の出手の届かざる深みより

◎◎ ふるえつつ進む秒針去年今年

(番号16)

出句用紙・作者名・横田清史

山陽道進まぬ渋滞二日かな

参道を下るにつれて初茜 特

もつ鍋で家族四人の忘年会

認知症患ふ母も屠蘇祝ふ

去年今年仕事の不具合引きずりし

◎特選
◎並選

番号(17)

出句用紙・作者名・米田よし

◎オリオンにまつ毛の刺さり点と線

○朝寒や逆さなる鷺猿沢へ

○○○遠ざかる上司の背中近松忌

鏡餅小さき井戸に神木に

去年今年御神火来るエンジン音

出句用紙・作者名・岡本へちま

葦原の雪を被かつきて撓りけり

ひと夜越し木の葉に光る六花むつのはな

焚火高く熱気にゆらぐ星座かな

地蔵抱く榎は雪を引受けて

新天地に転がり込みし去年今年

出句用紙(番号 19)

作者名 安藤 所彦

	おでん酒都ばるめのりフレイシ
〇〇〇	裏木戸の裸電球去年今年
〇〇	故郷の闇やはらかき三日かな
	街灯の灯る消ゆるや去年今年
〇	パソコンを卓袱台に乗せ去年今年

南柯句会

出句用紙

白井桃紅

○ 寒月や鴟尾は優しく包まるる

○○○ 明々と浮かぶ仁王や除夜詣

○ 飼主の愚痴聞き流すかじけ猫

○○ 母の手を引いて聞きたる除夜の鐘

○○○ 去年今年つけっぱなしのテレビかな

出句用紙(番号 21)

作者名 文蔵

鉄ストーブ80インチのダウラギリ

一 千年のアルゴリズムや五段重

特 茶事の妣ひと一椀ひとごとの初昔

ビヤン適ビヤンと空海踊る西都せいは初春はる

去年今年忸怩と慙愧のミルフィュー

南柯句会

出句用紙(番号 22)

作者名 関 洋子

〇〇〇	箱根路に友の給水息白し
〇〇	外泊の祖母を囲んで祝 <small>い</small> 箸
〇	着膨れてスクラムの子を応援す
	初春や友も吾も凶住吉さん
〇〇	百一で子は眠りけり去年今年

神戸港ニ笹又の白鳥去年今年

庭の実の二つ残りて去年今年

園庭の砂山さらに大きく去年今年

深夜まで予備校明り去去年今年

ゆっくとゆっくと溶けゆく屋根の霜

出句用紙(番号24)

作者名 近藤和草

○
去年今年犬とボレ口を聞きながら

○
去年今年ウィーン訛りの三拍子

初伊勢カヤ御手植えの松堂堂と

睦み合う句座の喜び年の酒

◎
読初は曙色の句集とす

南柯句会

○
嘗みの証し求めて去年今年

○
ドロミテの急峻仰ぎ冬五輪

○
参道はボトルネツウの初詣

夜半の冬あられ散あられこぼしが返す月

時空超え光る宝石冬銀河